

|小企画|

美術の中のかたち—手で見ると造形

八田豊展— 流れに触れる

Yutaka Hatta: *Touch the streams*



《流れ 08-18》2008年 楮、布

※出品されません

コレクション展 II

2019年7月6日(土)～11月10日(日)



加藤太郎 《トンボ》1944年頃
木版、紙

|特集1|

けんび八景

—新収蔵作品紹介—

|特集2|

没後80年 村上華岳



11) 村上華岳 《早春風景》1919年 絹本着彩
(前期展示)

開催情報

2019年度 コレクション展Ⅱ

小企画 「美術の中のかたち—手で見ると見る造形 八田豊展 流れに触れる」

特集1 「けんび八景—新収蔵作品紹介—」

特集2 「没後80年 村上華岳」

会期 2019年7月6日(土)～11月10日(日)

休館日 毎週月曜日(ただし7月15日、8月12日、9月16日、23日、10月14日、11月4日開館、翌火曜日休館)

開館時間 午前10時から午後6時(特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで) ※入場は閉館の30分前まで

会場 兵庫県立美術館

(〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL:078-262-0901 <https://www.artm.pref.hyogo.jp>)

常設展示室4(小企画「美術の中のかたち—手で見ると見る造形 八田豊展 流れに触れる」を開催)

常設展示室1、2、3、5(特集1「けんび八景—新収蔵作品紹介—」を開催)

常設展示室6(特集2「没後80年 村上華岳」を開催)

小磯良平記念室、金山平三記念室

主催 兵庫県立美術館

後援 兵庫県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会

協賛 公益財団法人伊藤文化財団、株式会社ハーフ・センチュリー・モア(サンシティタワー神戸)

観覧料金

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット券
一般	500	400	300
大学生	400	300	200
高校生以下	無料	無料	無料
障がい者と その介護者1名	無料	無料	無料
70歳以上	250	200	150

※70歳以上、障がい者の方は証明できるものをご提示ください

※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団のご協力により無料

※9月16日(月・祝)敬老の日は県内の70歳以上は無料

※11月2日(土)、3日(日・祝)、4日(月・振替休日)は無料

【小企画】 美術の中のかたち 一手で見る造形

八田豊展 流れに触れる

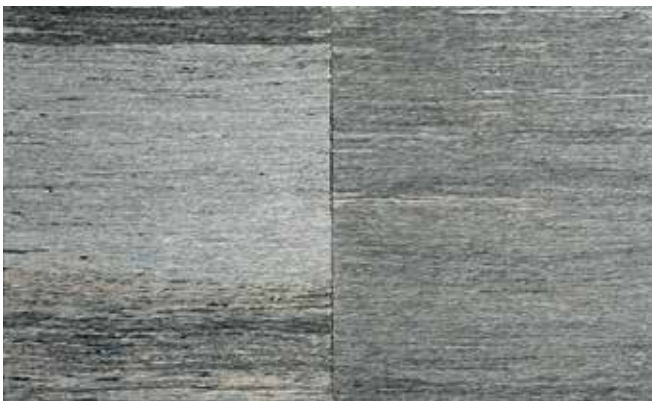
Form in Art

Yutaka Hatta exhibition: Touch the streams

本展のみどころ

- ・美術館の展示品に手で触れて鑑賞できる展覧会です。
- ・今回の出品作品では、和紙の原料である楮こうぞや、和紙をつくる時に出るみみの部分など作品によって使われている素材が異なります。素材そのものが持つ手触り、そしてそれらが連なって画面に並んだ時に生まれる新たな感触を体験することができます。
- ・八田氏は、楮を割いたものや和紙のみみを捻じったものをひとつひとつ、丁寧に、指先の感覚だけを頼りに貼りつけてゆきました。時に作品の大きさは、幅3mにもなっています。その制作の軌跡を実際に指でなぞることで、作者が手で感じ取った光景を想像してみてください。

開催趣旨



1) 《流れ 02-60、72》 2002年 楮紙、石、布

兵庫県立美術館は1989年度より「美術の中のかたち 一手で見る造形」展を開催してきました。この展覧会は、視覚に障がいをもつ人にも美術館に来て作品を鑑賞する機会をもっていただきたいという思いから始まったもので、視覚に偏りがちな美術館賞のあり方を問い直すことを目的としています。回を追うごとに様々な試みが重ねられ、現代美術の作品に親しむ機会ともなってきました。

30回目となる今回は、八田豊（はった・ゆたか 1930年福井県生）氏を出展作家に迎え、氏が1990年代より制作を続けてきた「流れ」シリーズを展示します。視力を失った作家が指先の感覚を頼りに作った作品に触れることで、その制作の軌跡を追体験するとともに、素材の性質がそのまま生きた作品を手で鑑賞する楽しさをご体験ください。

作家紹介

八田 豊



2) 《流れ 97-08》1997年 楮、布

1930年福井県生まれ。金沢美術工芸専門学校（現・金沢美術工芸大学）を卒業後、油彩画や金属板に幾何学模様を刻みこむ作品を制作していた。1980年代前半に失明するも数年後に制作を再開し、1990年代からは地元越前市の名産品である和紙やその原料の楮こうぞを使った平面作品「流れ」シリーズに着手、今日まで作り続けてきた。また一方で、土岡秀太郎が中心になって推し進めた北美文化協会による活動の流れを継ぎ、「今立現代美術紙展」「丹南アートフェスティバル」などを中心になって開催、福井における文化運動を推進してきた。



3) 制作風景

関連イベント

アーティスト・トーク

講師：八田豊（出品作家） 聞き手：横田直子（当館学芸員）、小野尚子（当館学芸員）

9月7日（土）午後2時～午後3時（午後1時30分より開場）

レクチャールームにて 聴講無料・先着順 定員100名

共催：兵庫県立美術館「芸術の館」友の会

【特集1】けんび八景 —新収蔵作品紹介—

【特集2】没後80年 村上華岳

本展のみどころ

- ・昨年度、新収蔵の作品を紹介する「特集1 けんび八景」と、近代日本画を代表する画家、村上華岳（むらかみ・かがく）を紹介する「特集2 没後80年 村上華岳」との二本立てで構成します。
- ・「けんび八景」では時代や技法の異なる当館の多彩なコレクションを8つの「景色」に見立て、作品を展示します。開館以来約50年にわたり収集されてきた「けんび=県美」のそれぞれ趣のことなる「風景」をご覧ください。
- ・「村上華岳」展では、当館所蔵の村上華岳の作品を前後期に分けて一挙公開。幽玄、枯淡な華岳の独創的な世界をご鑑賞ください。

開催趣旨

【特集1】けんび八景 —新収蔵作品紹介—

兵庫県立美術館では、前身である兵庫県立近代美術館（1970年開館）から継続的に作品収集を続けてきました。これまでに収蔵された作品数は10,000点以上にのぼり、これらの収蔵品を、年3回開催されるコレクション展で、様々なテーマのもとに展示しています。

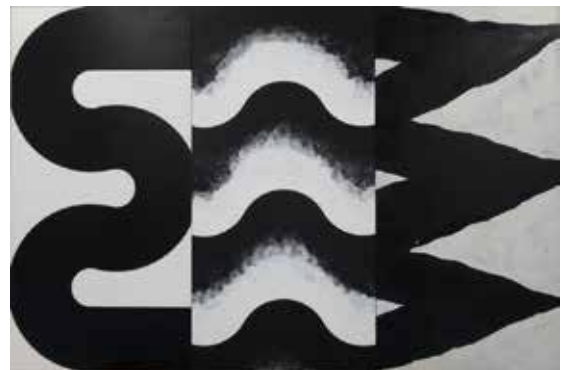
2019年度の第II期のコレクション展では「けんび八景」(※)と題し、ジャンルや時代の異なる作品群をそれぞれの次の8つの「景色」に見立て、2018年度に新たに収蔵された作品をそれらの「景色」の中で紹介します。

(※けんび=県美=兵庫県立美術館)

第一景 すがいくみ 菅井汲 生誕100年！

神戸に生まれ、1952年以降パリを拠点に制作を行い、国際的な評価を得た画家、すがいくみ菅井汲（1919-1996）の1950年代から90年代までの作品を、新収蔵作品を含め紹介します。荒い筆触を際立たせた初期の作品から、明確な輪郭と原色による平滑な色面で構成される作品まで、菅井の作風の展開をたどります。

(常設展示室1)



4) 菅井汲 《空の怒り》1986年 油彩、アクリル、布

第二景 50年代の地平—制作者集団「極」

1956年に結成された制作者集団「極」は、戦後急速に進んだ民主化の陰に潜む社会の矛盾や人間の苦悩を、具象とも抽象ともつかない独自の表現で描き出しました。ここでは「極」の作家、小林二郎、片山昭弘、久保晃の作品を展示します。

(常設展示室1)



5) 小林二郎 《生》1956年 油彩、布

第三景 かわいい版画

版画は当館の重要な収集対象の一つであり、収蔵品の中でも大きな割合を占めています。ここでは近現代の日本の版画コレクションの中から、身近なモチーフを題材にしたシンプルで明快な造形と色彩による魅力的な作品を展示します。

(常設展示室1)



6) 前川千帆 《猫》1959年 木版、紙

第四景 瓶花の魅力

花瓶に活けた花を描いた絵画は多くの画家たちによって描かれてきました。花の美しさを描くだけでなく、瓶花静物は画家たちにとって、モチーフの組み合わせや構図、色彩やかたちのバランスや調和などを試す格好の題材でもありました。

(常設展示室2)



7) 金山平三 《菊》1921年 油彩、布

第五景 1920～30年代の絵画—青山熊治と小出檜重

このたび、青山熊治(1886-1932)や小出檜重(1886-1931)をはじめ、1920年代から30年代にかけて描かれた作品がコレクションに加わりました。西洋から移入した油彩画による表現が成熟し、日本の表現としてひとつの達成をみたとされるこの時代の洋画を展示します。

(常設展示室2)



小出檜重 《裸女》1925年 油彩、紙

第六景 具体の作家たち

1954年に吉原治良によって結成され、従来の美術の概念を覆す独自の創作活動により国内外から注目された具体美術協会。今日もなお熱い視線が注がれる具体の作家たちの作品を展示します。

(常設展示室3)

第七景 るぼう 流氓ユダヤ

1941年、いわゆる「命のビザ」を携えて神戸に滞在したユダヤ難民を写した一連の写真を展示します。当時大阪で結成されたアマチュア写真倶楽部である「丹平写真倶楽部」のメンバーであった安井仲治やすいなかじ (1903-1942)、椎原治しいはらおさむ (1905-1974)、田淵銀芳たぶちかねよし (1917-1997) によって撮影されたこれらの写真には、束の間の休息を得てくつろいだ表情をみせる亡命ユダヤ人たちの姿が克明にとらえられています。

(常設展示室3)

第八景 空間の中のかたち

当館の収集の柱のひとつである近・現代彫刻を紹介します。「美術の中のかたち―手でみる造形」の開催にあわせ、ブロンズ彫刻を中心に構成するとともに、新収蔵作品を紹介します。

(常設展示室5)

【小磯良平記念室】

気品のある優美な女性像で知られる近代日本洋画の巨匠、小磯良平 (1903-1988)。2018年度に新たに1点、女性を描いた優品がコレクションに加われました。時代を経ても色あせることのない、小磯良平の世界を新収蔵作品も含め当館選りすぐりのコレクションを通して紹介します。

【金山平三記念室】

金山平三 (1883-1964) は神戸に生まれ、前半生は帝展作家として中央画壇で活躍、後半生は日本各地を旅し、四季折々の日本の風景を描きました。澄んだ色彩と卓越した筆さばきで描かれた数々の秀逸な風景画のうち、今回は水辺の風景を描いた作品を中心に、2018年度の新収蔵作品も含め展示します。



8) 吉原治良 《黒地に赤い円》1965年
アクリリックカラー、布



9) 田淵銀芳 《流氓ユダヤ》1941年
ゼラチンシルバープリント



10) 大西伸明 《kyatatsu》2017年
樹脂に塗装



金山平三 《無題(海岸)》1935年頃 油彩、布

【特集2】没後80年 村上華岳

前期：7月6日(土)～9月8日(日)

後期：9月10日(火)～11月10日(日)

村上華岳(1888-1939)は大阪に生まれ、京都市立絵画専門学校で学び、後半生は神戸の花隈で制作を行った日本画家です。文展の審査に不信を募らせた仲間とともに1918年、国画創作協会を結成、新しい絵画表現に挑みました。仏や六甲の山々を描いた風景画などを主に描き、墨線を主体とした繊細な線描による精神性の高い作品を発表、その独特な表現は今もなお観る者を惹きつけます。

兵庫県立美術館は前身の近代美術館時代より、華岳を兵庫県ゆかりの重要作家と位置づけ、常設展など様々な機会で紹介してきました。没後80年を迎える本年、開館以来、購入、寄贈により収集されてきた当館の華岳コレクションを前期後期に分けて展示し、その絵画の魅力に迫ります。(常設展示室6)



12) 村上華岳 《菩提樹下観法之図》1934年
紙本淡彩 (後期展示)

関連イベント

- (1) 学芸員によるギャラリートーク
8月3日(土)、9月21日(土)
※いずれも午後4時より(所要時間：45分)
※参加無料、要観覧券
- (2) ミュージアム・ボランティアによるガイド・ツアー
会期中の金・土・日曜の午後1時から(所要時間：45分)
※参加無料、要観覧券
- (3) こどものイベント
別途ホームページでお知らせします

お問い合わせ先

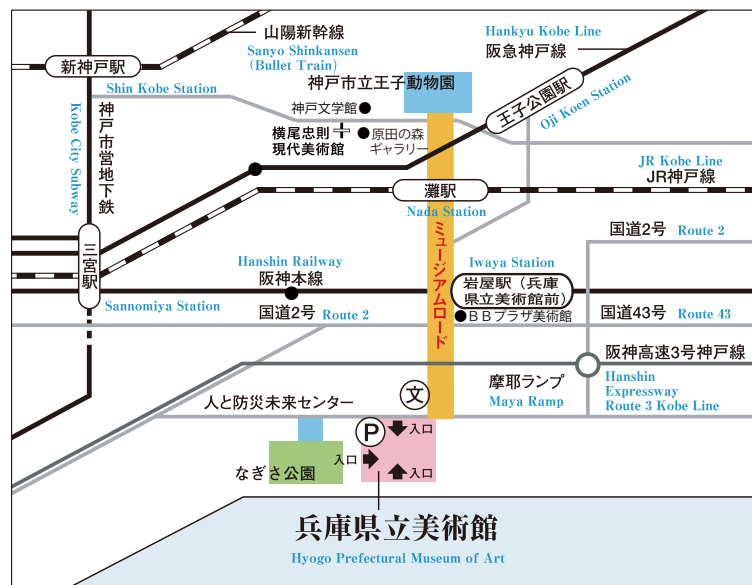
兵庫県立美術館
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL: 078-262-0901(代) FAX: 078-262-0903(代)
<https://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・画像提供に関すること
 営業・広報担当
 TEL: 078-262-0905(担当直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること
 小企画「美術の中のかたち—手で見る造形
 八田豊展 流れに触れる」
 担当学芸員：小野尚子
 e-mail: ono@artm.pref.hyogo.jp
 特集1「けんび八景—新収蔵作品紹介—」
 特集2「没後80年 村上華岳」
 担当学芸員：飯尾由貴子
 e-mail: iio@artm.pref.hyogo.jp
 TEL: 078-262-0909(学芸直通) FAX: 078-262-0913(学芸直通)

【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分
 - ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
 - ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
 - ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29、101系統)阪神バスにて約15分
 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
 - ・ 地下駐車場(乗用車80台収容・有料)
- *ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
 *団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



画像使用に際しての注意

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

○作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作品名・制作年・所蔵などを必ず入れてください。

○作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。

○画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません(使用は会期終了まで)。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

○Webサイトに掲載する場合は、必ずコピーガードを設定してください。これにより難しい場合は、解像度の低い別画像(同図版)をご用意しますので、その旨を申込書に記載願います。

○基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送り願います。

○展覧会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報担当」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

○本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)、URLなどを、「営業・広報担当」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。